

「小中学生の携帯電話・スマートフォン等の適正な利用に向けて」の啓発運動及びいじめ根絶に向けての取組について(その3)

今回は、2月13日(月)に行いました子育て支援講演会の様子をお伝えします。

「いじめの根源にあるもの-No.1、Only OneからALL Oneへ」

元愛知県教育委員会 生徒指導サポートコーディネーター

愛知県小・中・高等学校スクールカウンセラー 山口 力 先生

【デジタルな時代だからこそ、あたたかみのあるアナログを】



〈講師：山口力先生〉

- 私たちを取り巻く環境は多くのものがデジタル化され急激に進歩した。しかし、私たちの心は進歩していない。心は、複雑化している。
- こんなデジタルな時代だからこそ、あたたかみのあるアナログなかわり、アナログな子育てを大切にしたい。
- ある小学校の講演会で子どもたちに「お父さんやお母さんはスマホをやっているか」と質問した。すると多くの子どもたちが「ずっとやっている」「自分たちより夢中になっている」とおしえてくれた。私たちがスマホに飲み込まれている。
- 子どもが嫌がるコミュニケーション。①スマホをいじりながら聞く(目を見てくれない)②話しかけても「今、忙しいから」と言って相手にしてくれない③いつも忙しそうで笑っていない。
- 子育てには「私は見捨てない」という姿勢が必要である。

【優越感・劣等感から本物の自信へ ～結果ではなくプロセスを大切に作る～】

- 自分に自信がなく、人を信じることができない子どもたちが急激に増えている。その大きな理由の一つに「結果」中心の子育てと教育がある。子どもたちは、人と比べられ、結果だけで評価されている。
- 人と比較・競争することによって得られる自信は、自信ではなく優越感である。優越感と自信はまったく違う。優越感がある人は必ず同時に劣等感をもっている。
- 悲しいことに優越感と劣等感が強い人は、必ず人を差別する。
- 「結果」はつめたさであり、「プロセス」はあたたかさである。「プロセス」とは他の子と比較しないということである。

【”差”と”違い”はちがう】

- 人は一人一人違う。「違い」を「差」として、差別することは決してあってはならない。
- 違うことに意味があり、価値がある。それが「ALL One」である。
- 私たちはなぜ生まれてきたのか。それは「自信」があるからである。



【子育て四訓】

- 子育て四訓。「①乳児は肌を離すな。②幼児は肌を離して、手を離すな。③少年になったら手を離して、目を離すな。④青年期には目を離して、心を離すな」。

わずか1時間の講演会でしたが、たいへん内容の濃いものでした。講演会后に何人もの方々が講師の山口先生とお話しになっていました。山口先生に子育てについての質問や聞いてみたいことがあれば、下の問い合わせ先までお願いします。

【問い合わせ先】 長久手市小中学校PTA連絡協議会事務局
長久手市立南中学校(教頭 大津) 電話 0561-62-9191